

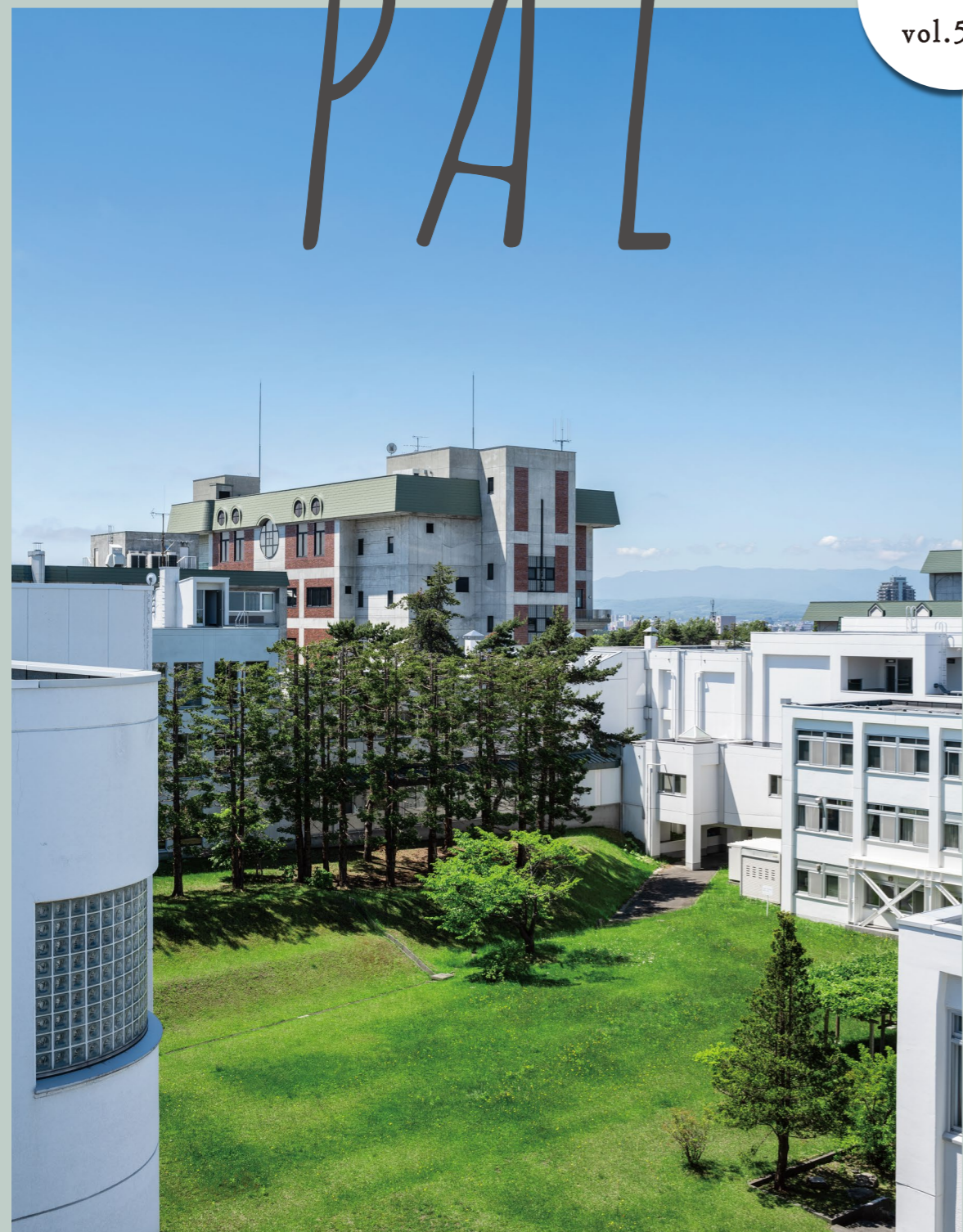
# PAL

2024

vol.542

Place Amie Liberte

from April 2023 to March 2024 for the Future



特集 | 理事長メッセージ

## より豊かな法人の未来を描く。

北翔大学「北翔祭」

### 学生の情熱で学祭を復活！

翔タイム！10年後の北翔大学を考えよう

## 学生の目線で、 大学をより魅力的な場に。

北翔の地域連携 キャンパス事件簿  
学部・学科ニュース 2023年間ダイジェスト  
北翔大学ファン



## HOKUSHO FAN

北翔大学ファン 3



萩原 誠二 さん — 設備管理スタッフ

「社会でも活躍してほしい」と、  
我が子のように楽しみに思っています。

**工** ネルギー棟にある施設管理  
室で学内の設備管理を担当  
しています。主な仕事は熱源設備の  
ボイラーや給水設備などの巡回と  
点検です。毎日1時間から1時間半  
ほどかけて、すべての建物を回りま  
す。歩数は朝の巡回だけで1万歩  
以上にもなるんですよ。また、照明  
の交換や水回りの修理なども自分  
でできるものは対応します。特に気  
をつかうのは、冬季のボイラー点検  
ですね。故障があると、皆さんに寒  
い思いをさせてしまいますし、学業  
にも支障が出ます。わずかな異常も  
見逃さず、迅速に対応するようにし  
ています。

つながりも複雑なので、最初は迷子  
になったこともありました。ですが  
ら、迷っている新入生を見かけると、  
声をかけて順路を教えたり、案内し  
たりしています。「自分はどこにいる  
んだらう」という困った気持ちはよ  
くわかるので(笑)

この仕事をして良かったと思う  
のは、学生さんや教職員の方から挨拶  
をされたり、「ありがと」と言われ  
たりすること。皆さんが快適に過  
ごせるように頑張ろうと思えます。  
今では身内のように感じていて、3  
月に着物姿やスーツ姿の卒業生を  
見ると、「社会に出て活躍してほ  
しい」と、我が子を応援するような  
気持ちになるんですよ。

### PROFILE

南幌町出身。高校卒業後、札幌の  
ファッションビルに入社し、38年間  
設備管理業務などに従事。定年退  
職後、2017年より本学の設備管理  
スタッフ。「仕事の合間に野球部の  
試合を見るのが密かな楽しみ。学生  
さんの活躍を応援しています！」





# より豊かな法人の未来を描く。

学校法人北翔大学 理事長  
小柴 寛芳



こしば・ひろよし/1949年、小樽市出身。1972年、京都産業大学経済学部経済学科を卒業。民間企業を経て、道内の私立大学に勤務し、事務局長、常務理事を歴任。2015年、学校法人浅井学園(当時)監事に就任。その後、2016年より内部監査室長、2017年より専務理事を務める。2023年5月、学校法人北翔大学理事長に就任。

## 強固な経営基盤の確立と法人・大学の連携強化を図る

2023年5月より学校法人北翔大学の理事長を拝命いたしました。本法人の歴史は1939年に創設された「北海道レスメーカー女学園」に始まります。以来、84年にわたる歴史の中で、約8万人もの卒業生を社会に送り出してきた本法人の経営を担うという使命感を持ち、在学生や卒業生、教職員が誇ることのできる大学づくりに取り組んでまいります。

大学が持続的な成長を図り、質の高い教育を提供し続けるためには、強固な財政基盤を築く必要があります。私は、以前、勤務していた大学も含め、50年近く大学の経営に関わってきました。特に財務分野の経験が長かったことから、そのノウハウを生かし、本法人の財政基盤の強化に取り組んでいく考えです。

また、北翔大学の発展のためには、法人と大学が一体となって大学づくりに取り組むことが大切だと考えています。それには、私と学長の連携・協力はもちろん、法人と大学が密接に連携できる組織体制の整備も求められます。そのため、2024年度から総合政策推進室という部門を新設し、組織横断的な取り組みを推進する予定です。健全財政の確保と



あわせて組織の活性化や職員の意識改革に努め、盤石な経営体制の確立をめざしてまいります。

## 大学の個性を生かし教育の質をより高める努力を

私が思う本学の魅力は、学生の皆さんが生きていく中で、キャンパスの雰囲気を感じるということです。来訪されるお客様から「北翔大学の学生さんは、みんな元気よく挨拶をしてくれる。他の大学ではこういうことはあまりない」と言われると、とても誇らしい気持ちになります。このような学風は良い伝統として、今後も守り続けてほしいと思います。

北海道の大学では数少ないスポー

ツや芸術に関わる学科を擁し、多様な教育を展開していることも本学ならではの特徴です。地域連携や地域貢献活動にも熱心に取り組む、地域の皆さまから親しまれる存在となっています。また、冬には学生自治会によるイルミネーションが灯され、近隣住民の方や周辺の他大学の学生からも好評を得ています。

先生方も非常に熱心に教育に取り組まれており、それをサポートする職員も努力を惜しまない人ばかりです。近年は「教職協働」を推進し、教員と職員が連携して授業や活動を行う場面が増えてきました。ともに教育現場を担う者として一体感を高め、新たな価値を生み出してくれることを期待しています。法人としても、職員研修の拡充などによって教職協働体制を確立し、質の高い教育環境づくりを進めていく考えです。

## 選ばれる大学であるために新たな魅力づくりも重視

現代の大学運営は、18歳人口の減少をはじめ、多くの課題に直面しています。さらに、新たな就学支援制度の導入により、道内進学者の動向の変化も予想されています。そうした中、いかに本学の魅力を打ち出し、入学者を確保するかが重要になります。

その一つとして力を入れていきたいのが、海外との交流の復活、推進です。現在も、ゼミ単位での短期留学や海外研修プログラムはありますが、国際交流がより身近なものになるよう、大学全体の取り組みとして確立したいと考えています。例えば、海外の大学と新たに提携を結び、留学生の派遣や受け入れ、教員間の交流などを進めることで、キャンパスにいながら異文化交流ができる



環境をつくることができれば、本学にとって大きな強みになるだろうと思います。こうしたキャンパスの国際化に向け、学長とも密接に連携してまいります。

また、今後は校舎や施設のリニューアルにも力を入れる予定です。すでに、一部は進んでいます。古くなった設備の入れ替えや、教室へのエアコン、暖房の導入など、快適な学習環境の整備を強化します。

本学は、特色ある教育や地域活動、スポーツ分野における学生の活躍など、他に誇るべき多くの魅力を持っています。そうした情報を広く発信することで、社会的な評価を獲得し、他大学との差別化を図ることも重視すべき取り組みの一つです。戦略的

## 皆さんに「よりよい」ながら新たな伝統を築いていく

学長が折あるごとに使われるのが「よりよい」という言葉です。この言葉には本学での学びをとおり、人や社会により添う人間に育ってほしいという願いが込められていると同時に、すべての教職員が学生により添い、その成長を支えていくという本学の使命の一つが示されています。かけがえない2年間、あるいは4年間を過ごす学びの場として本学が選ばれ続けるために、学生の声に耳を傾け、一人ひとりにより添う教育を追求してまいります。その一環として、コロナ禍で導入したオンライン授業を継続し、対面・遠隔双方でのハイブリッドな授業を展開していくことも考えています。

先代の理事長は教育のモットーに「学生第一」を掲げられていました。私もそれを引き継ぎ、学生第一主義で本法人の運営に臨んでまいります。創立84年の歴史と伝統を守りながら、先を見据えた挑戦を続け、新たな伝統を築くという役割を果たしていきたいと考えています。

## 法人と大学が一体となり、

## 魅力ある大学づくりを

## 推進してまいります。





542名もの来場者を集めた  
こども学科の企画「こどものくに」



作りたての味を楽しめる模擬店は  
行列ができるほど盛況だった



フィナーレの花火大会



地域の方も参加できる茶道や台湾茶のおもてなし



絵画作品の展示やゲーム大会も来場者の関心が高かった

重ねました。企画を考える上で大切にしたのが、本学の魅力をアピールできる内容にすることでした。そこには、将来の入学者増につなげたいという思いがありました。また、コロナ禍から抜け出し、新しい時代に飛び立つという願いと、社会人として本学から飛び立つという意味を含め、テーマは「飛翔」に決めました。何度も企画を練り直し、ようやく内容が決まったのが2023年の4月末。そこから実行委員を募り、約30名体制で準備に取りかかりました。「部門別の会議をこまめに行い、方向性を合わせながら準備を進めました。開催まで5カ月しかなく、なんと

か間に合わせようと必死でした」想定外の出来事もありました。「北翔コン」と銘打った学生コンテストの募集をしたところまったく人が集まらず、取りやめることに。また、大学祭を告知するポスターの掲示や地域への挨拶回りが、開催の10日前になつてしまったのも反省点でした。「万全の準備で迎えた開催当日。「人が来なかったらどうしよう」と不安でいっぱいだった宗像さんが目にしたのは、大学構内が人であふれる光景でした。「1000人を超える人が来場してくれたと知り驚きました。こんなに多くの人を巻き込むことができるなんて、本当にやって良かった、と感

動しました。また、本学がいかに地域に根付き、親しまれているかを再認識することもできました」こうして4年ぶりの北翔祭は、フィナーレの花火とともに、大成功のうちに終わりました。

**人とつながる大切さ、先輩との絆の強さを実感**

大学祭を復活させるという一大プロジェクトを通し、宗像さんが学んだのは、人と協力し合うことの大切さでした。実行委員だけでなく、教職員や卒業生の方々、学外の企業などと連携できたことは、社会に出る前の貴重な経験になったといいます。

「特に淑萃会には資金面の援助など、さまざまな面で助けていただき、心から感謝しています。ステージライプのゲストを選定する際もサポートしていただいたおかげで、スムーズに交渉を進めることができました。大先輩方がいつまでも母校を大切に思い、後輩のために快く協力してくださったことに、北翔の絆の強さを実感しました」

学生たちの情熱と努力、そして卒業生や地域の方々からの温かな協力によって復活を遂げた北翔祭。宗像さんたち実行委員がつくり上げた新たな伝統は、次代を担う学生たちに引き継がれていきます。

## 北翔大学 「北翔祭」

# 学生の情熱で 学祭を復活！



大勢の観客で盛り上がった教員バンドのライブやヨソコイの演奏



大学祭実行委員長  
宗像 輝嗣さん  
教育学科4年

**正**門から校舎まで続く道を埋め尽くした人の波。どの人も楽しそうに模擬店をのぞき込んだり、食べ物を買った。ライブが行われているステージの前には人だかりもできています。本学がこれほど大勢の人で賑わうのは久しぶりでした。

2023年9月23日、本学の大学祭「北翔祭」が開催されました。2020年に新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって中止になって以来、4年ぶりとなる開催でした。今回、大学祭の開催に至るには数多くの困難がありました。なぜなら4年間のブランクによって、大学祭に関わった経験のある学生がほぼいなくなっていたからです。記憶も記録も失われつつあった大学祭を復活させたのは、学生たちの熱意でした。大学祭実行委員長としてその中心

的役割を果たした宗像輝嗣さん（教育学科4年）は「本学でも大学祭が行われていたことを知ったのは3年生の10月のことでした。学生生活支援オフィスで詳しい話を聞き、ゼロベースに近い状態だからこそ、自分たちの手で大学祭を復活させたい、と思いました」と当時の思いを明かします。その後、同じ思いを持つ仲間が集まり、当初は8人で大学祭の復活に向けた活動を開始しましたが、開催当日には約30名の仲間達とともに運営することができました。

**苦労と不安を乗り越え  
手にした大きな感動**

宗像さんたちは、本学の同窓会「淑萃会」を通し、過去の大学祭について話を聞いたり、職員にアドバイスを受けたりしながら企画の検討を



実行委員会のメンバーたち。当初は8名で活動を開始し、約30名体制で4年ぶりの開催に至った





翔タイム！  
10年後の北翔大学を考えよう

# 学生の目線で、 大学をより 魅力的な場に。

学生が中心になって大学の魅力向上に取り組む  
学生FD活動「翔タイム！」を4年ぶりに開催しました。

## 大

学の教育の質を高めるため、教職員が授業内容やその方法を改善し、向上を図る組織的な取り組みをFD (Faculty Development) としています。2008年の大学設置基準の一部改定によって、大学院に続き学部でもFDの実施が義務付けられました。

本学は2004年より全学的なFD活動を推進し、2009年からは大学・短大間の教育改善の連携と発展をめざす「FDネットワーク」つばさ」に加盟しています。また、加盟大学間の学生交流から、2011年に学生FD団体「北翔アンビエント」が

### 学生と教職員が一体に

2023年8月2日、コロナ禍を経て4年ぶりに「翔タイム！」が開催されました。テーマは「10年後の北翔大学を考えよう」。学生21名、教員8名、職員7名が7つのグループに分かれ、実現可能な大学の未来について話し合いました。最初は遠慮がちだった学生もニックネームで呼び合ううちに打ち解け、積極的に意見を述べる姿が見られました。



きっかけになったのではないでしょうかと振り返ります。

その後、グループごとに意見を練り上げ、9月26日にプレゼンテーションを実施。学長や学生、教職員を前に、SNSを活用した情報発信の提案など、多様なテーマで発表を行いました。学生は自分の意見を発信する貴重な機会になったのと同時に、本

学がより良い教育環境をつくる上で大切な糧となりました。

### 目標は学生FDの活性化

学生と教職員が共に大学の未来を考えることで、新たな気づきや交流を生む機会となった「翔タイム！」。今後、学生FD活動を継続する上で課題になるのが、北翔アンビエントの

メンバーをいかに確保するかです。坂下さんは、活動の意義を伝え、メンバーを増やしていきたいと言います。

「学科の壁を超えて学生が交流できたり、学生と先生が個別に面談できる機会が増えれば、互いの理解が深まるし、大学ももっと魅力的になるはず。そのためにも、学生FD活動を盛り上げていきたいと思っています」

## 北翔の地域連携

# 大学の知と熱を、地域で暮らす人々へ。

### 市民向け講座「対面」を再開

同じ時間を同じ教室で過ごすからこそ生まれる緊張感と学ぶ楽しさが戻ってきました。2023年度北翔大学の教養・公開講座はコロナ禍を挟み、4年ぶりに対面形式で開講しました。



教養講座はスポーツ、健康、心理などの講義のほか、趣味を深める茶道やピアノ、毛筆、子ども向けの算数教室やマスコット作りなど、多彩な13講座(YouTube 2講座含む)をそ

ろえました。公開講座は4講座で、フィンランド発祥のスポーツ「モルック」での健康づくりでは笑顔と笑い声が弾け、対面ならではの光景があららこちらで見られました。

市民向け講座  
(本学HP)



<https://www.hokusho-u.ac.jp/lifelonglearning/extensionlecture/>

### 市長を迎え「ふるさと江別塾」

「ふるさと江別塾」が3年ぶりに対面形式での開催となり、2023年10月14日、本学に塾長の後藤好人江別市長を迎え、開講式が行われました。入江智也准教授(教育文化学部心理



カウンセリング学科)が、約50人の受講者を前に2講座を担当。授業後、質問攻めになったのも対面だからその光景でした。

### 18校目の高大連携協定締結

2023年8月、北海道教育学園三和高等学校と18校目の高大連携協定を結びました。山谷敬三郎学長は「内容の濃い、質の伴った連携を進めたい」と意欲を示しました。同年3月には地元・江別の高校では初となる江別高等学校と17校目の高大連携協定を結んでいます。

## キャンパス 事件簿

File 3

記録的な猛暑で緊急事態  
冷房完備計画が進行中



こ 数年、暑さに拍車がかかっている夏の猛暑。北海道も例外ではなく、2023年は44日間連続真夏日という、異常ともいえる暑さが続きました。連日30度を超える状況に、とうとう本学の教員からは「暑すぎて研究ができない」と悲鳴が上がるほどでした。

これまでの卒業生アンケートでも「学内は夏は暑く、冬は寒かった」という不満が見られ、冷房設備の導入は以前から課題になっていました。「近年は自宅にエアコンがある学生が増えていますし、命に関わることなので『我慢して』とは言えません。暑いから授業をサボる、ということがないように、学習に集中できる

環境を整備する必要があります」と総務課の職員は言います。

### 学生ファーストで、冷房の設置を進めています。

総務課では「冷房完備2カ年計画」を立て、稼働率が高い中教室から優先的に冷房の設置を開始。2023年末時点でPAL棟4・5階の食堂に10台ずつを含め、計33台を設置しました。学生からは「以前は食堂の窓を開けると虫が入ってきたりしたけれど、冷房のおかげで快適に食事ができるようになった」という喜びの声が寄せられています。「冷房を設置できたのは全体の40%程度。これを100%に近づけていくのが目標です」と話す総務課の職員。使わない教室の冷房をこまめに消すなど、CO2の発生や電気代を抑える工夫もしながら、学生ファーストの取り組みが続きます。





健康福祉学科はパラスポーツの活動を支援しています。これまで体力測定会・パラスポーツ体験会(北海道庁)や、パラアスリート発掘事業(日本パラスポーツ協会)に教員を派遣し、2018~19年に本学で実施した体験会では、健康福祉学科の学生たちもスタッフとしてパラスポーツの場を支えました。



ジャパン・ライジング・スタープロジェクト2023 (北ガスアリーナ)

新型コロナウイルス感染症の感染拡大中はこれらの事業も自粛されていましたが、2023年度は7月と9月に体験会などが行われ、北海道でパラスポーツを盛り上げる機運が再び高まってきました。

機会があったら、ぜひパラスポーツを見たり、体験したり、話題にしてください!



体力測定会・パラスポーツ体験会 in 北翔大学 2019

## 健康福祉学科

Department of Health and Welfare Science

プールはただ泳ぐだけでなく、健康づくりやリハビリテーションなど、予防医学的にも活用することができる運動環境です。水を媒体として健康を維持・増進させることが可能で、そうした概念をアクアフィットネスと呼びます。



花井篤子教授のゼミでは、学内にある道内唯一のバリアフリー屋内プールで、氷雪寒冷地域住民を対象にした水中運動教室の指導補助を学んでいます。ゼミ生達は、健康づくりや運動処方の理論だけでなく、実際に体力測定や水中運動の指導補助を行うことを通じ、中高齢者の運動指導や健康づくりのための学びを実践の場で深めています。



## スポーツ教育学科

Department of Sport Education

### 生涯スポーツ学部

### 転倒予防のための水中運動教室の指導補助

### パラスポーツでつながろう! 生涯スポーツの学び

こども学科では、1年次に研修旅行を実施しています。園外保育や野外活動における引率者としての心得や、地域の特色や資源をどのように保育・教育活動に有効的に活用するのかなど、事前・事後学習を通して理解を深め、実際に体験しながら学習します。



2023年度は江別市の主要な産業や歴史について学ぶため、11月12日に「江別市セラミックアートセンター」「江別河川防災ステーション」「アースドリーム角山農場」をめぐる、子どもにとっての学びの対象についても視点を向けました。学生たちは初めて知ることも多く、大変有意義な研修となりました。



## こども学科

Department of Childhood Studies

### 地域連携における体験型学習 江別市の地域資源と歴史を知る

2023年12月16日、服飾を専攻するライフデザイン学科と芸術学科の学生によるファッションショーを、札幌円山キャンパスで開催しました。今回のテーマは「零」。その思いは、コロナ禍に明け暮れた激動期を経て、やっと行動制限が緩和されてきたこと。また本学が開学60周年であることから、「ゼロ地点」に戻り新たなスタートをきるという意味を込めました。



ショーではアートとテキスタイルを組み合わせた作品など、合わせて20テーマ110点を紹介。スペシャルサプライズとして、高谷健太氏(山本寛齋事務所代表取締役、デザイナー・クリエイティブディレクター)から総評をいただきました。



## ライフデザイン学科

Department of Life Design Studies

### 短期大学部

### 第56回学外発表会ファッションショー 60周年記念メモリアル展開催

心理カウンセリング学科では2年生の必修科目「心理学基礎演習」において、ゼミごとに共同研究に取り組んでいます。2023年12月12日と19日の2日に分け、その成果を発表しました。



どの発表も素朴な疑問から出発したテーマが設定され、調査データに基づいて考察がなされました。1年生も見学する中、各発表について活発な質疑応答が行われ、学生たちにとって有意義な時間となりました。このように、研究のプロセスの全工程を実践的に経験することによって、3・4年次に取り組む卒業研究に向けて心構えができ、準備を進めるのに役立っています。



## 心理カウンセリング学科

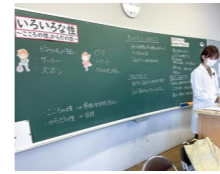
Department of Psychology and Counseling

### 2年生の「心理学基礎演習」でゼミ共同研究発表会を開催

## 教育文化学部

Department of Education

教育学科では、新型コロナウイルス感染症の5類移行もあり、人との触れ合いや交流を取り入れた学びが本格的に再始動しました。

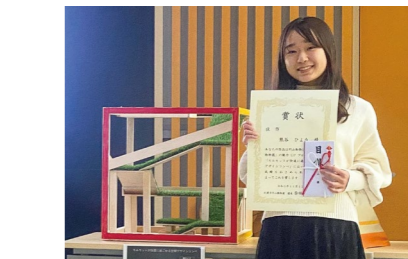


例えば音楽コース、初等教育コース、幼児教育コースの学生たちが参加・運営した「芸術であそぼう! 円山遊び塾」など、実際に子どもたちと一緒に活動する場面が増えました。また、養護教諭コースでは、実際に養護実習に行った先輩が後輩たちに自身の実習経験をもとにした模擬授業を実施し、学年を越えた学びの交流も行われています。このように教育学科では、先生をめざして、机上の学びだけでなく実践的・体験的な学びを重視しています。



### 本学始動しています! 教育学科の実践的・体験的な活動

### 学部・学科ニュース



2023年11月、札幌円山動物園と北海道建築士会札幌支部共催の「モルモットが快適に過ごせる空間デザインコンペ」において、3年生の熊谷ひよりさんの作品が最優秀賞、優秀賞に次ぐ佳作に選ばれ、賞金1万円と賞状が授与されました。

作品では、モルモットが上下に移動しながら楽しく過ごすことができる「空中歩廊」を提案。図面審査を通過したのち、試作模型とプレゼン動画による審査を経て見事入選しました。



熊谷さんは2年次に教育学科から芸術学科に編入し、部活では体操競技部の選手として活動。本学でやりたいことと得意なことを見つけました。

## 芸術学科

Department of Art and Design

### 空間デザインコンペでインテリア建築分野の熊谷さんの作品が受賞

UNIVERSITY & COLLEGE NEWS



## Event トークライブ「地球の声」に教育学部横山光教授が登壇

2023年12月3日、江別 葛屋書店において、北海道情報大学主催、本学共催による『地球の声』超低周波音展示&トークライブ」が開催されました。地震や火山噴火、雪崩などの大規模自然災害に伴って発生する「超低周波音」を地域の方々を知ってもらう、防災に生かす情報提供のあり方を共に考えることを目的としたイベントでした。午後に行われたトークライブ「地球の声を防災に」では、本学教育文化学部の横山光教授が、江別市で発生が予想される自然災害や自然・科学情報の読み取り方を紹介。北海道情報大学の柿並義宏教授が超低周波音の解説やそれを減災に役立てる取り組みを、江別市の危機対策・防災担当者が災害発生時の行動をそれぞれ説明しました。



## Report こどもたちと一緒にジャガイモを収穫しました

こども学科の前期集中講義「こどもと自然」では、毎年、学内のこども学科農園でジャガイモや枝豆などを栽培しています。今年度も学生たちが愛情を込めて育てたジャガイモが豊作となり、2023年8月に「認定こども園あけぼの」の中児19名と一緒に収穫を行いました。こどもたちは土の中から出てくるジャガイモに大喜びで、夢中になって掘り出していました。また、真っ赤に実ったミニトマトもたくさん収穫していました。小さいこどもと関わるのは初めてという学生もいましたが、積極的に声をかけ、触れ合う姿が見られました。終了後には「こどもたちには多様な個性があることに気づいた」という感想が出るなど、貴重な学びにつながる時間になりました。



## Report 心理カウンセリング学科の学生が「江別の気になる100人」に

江別市地域おこし協力隊がさまざまな人にインタビューを行い、江別の魅力を発信する「江別の気になる100人」の取材を、2023年4月25日に心理カウンセリング学科4年の高谷春伽さんが受けました。取材では、充実しているという学生生活やボランティア活動への思い、江別の良いところなどを笑顔で答えていた高谷さん。オンラインから対面の授業に戻ったときは「友人や先生たちと普通に会えるようになったことがうれしかった」と振り返っていました。また、ボランティア活動は「他大学の学生や地域の企業の人たちとの交流が楽しい」と生き生きと話していました。高谷さんのインタビューは5月中旬に、同協力隊のインスタグラムなどで公開されました。



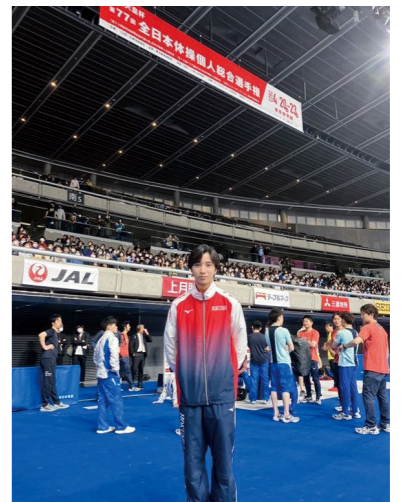
## Sports 軟式野球部の中西倅己投手が大学軟式野球日本代表に選出

2023年12月8日から10日にかけて「第26回全日本大学軟式野球国際親善大会」が台湾で開催され、軟式野球部の中西倅己投手（スポーツ教育学科3年）が全日本代表メンバーとして出場しました。台湾の社会人や大学チームとの交流試合5試合が行われ、中西さんは5イニングに登板。無安打、無四死球に抑える好投を見せ、大会は日本代表チームの全勝に終わりました。中西さんは6月に宮崎県で行われた大学軟式野球の日本代表選考会に参加し、北海道からただ一人選出されました。今回の経験を振り返り「代表メンバーは強豪大学の選手ばかりで、練習や試合に臨む際の意識が非常に高く、良い刺激を受けました。また、専門のトレーナーから指導を受けたことで、実践的なトレーニング方法を学ぶことができました」と話しました。中西さんが所属する軟式野球部は、2023年の北海道1部リーグで優勝し、8月に長野で開催された「第3回全日本大学軟式野球選抜大会」に北海道代表として出場しました。中西さんは「日本代表での経験を部員に伝え、チーム力を底上げするのが目標。日本代表をめざしている後輩がいるので、次は一緒に選ばれるように練習を重ねていきます」と今後の抱負を語りました。



## Sports 全日本体操個人総合選手権の種目別跳馬で大谷直希さんが優勝!

「第77回全日本体操個人総合選手権」が2023年4月19日から23日にかけて東京体育館で開催され、体操競技部の大谷直希さん（スポーツ教育学科4年）が、種目別跳馬において優勝という快挙を成し遂げました。大谷さんは現役のオリンピック選手も出場する中で予選を勝ち抜き、6名で行われた決勝で「日本」の栄誉を勝ち取りました。決め手となったのは「伸身カサマツ2回半ひねり（ヨネクラ）」という技でした。床から足が離れてから着地するまで、合計で3回半ひねるといふもので、2019年に日本人選手が披露して以来、大会での成功者は世界でも10人に達しているかどうかという、最高難度の技。「一つの技だけを極めることに集中しました」という大谷さんの作戦が功を奏した結果でした。大谷さんは同選手権で優勝したことで、体操競技を始め、目標にしていたという日本最高峰の大会「NHK杯」への出場を果たしました。すでに来期に向け、ヨネクラを改良し、さらに難度の高いオリジナルの技に取り組み始めています。「次の目標は日本代表になること。今回の優勝で、それが一歩実現に近づきました」と、今後の飛躍に意欲を見せました。



## 北翔大学寄付金募集のご案内

本学では、このところの経済不況により就学の継続が困難な学生の増加に伴い、学生への支援とあわせて、良質な教育環境を今後も維持していくために、寄付金を募集しています。ご支援を賜りました寄付金は有効に活用させていただき、有能な人材の輩出、社会に役立つ研究成果を通して、広く社会に還元し、貢献してまいります。ご寄付をいただいた金額に税制上の優遇措置を受けることができますので、企業等法人及び個人の皆さまのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【募集期間】 2025年5月まで（常時受付させていただきます）  
 【お問い合わせ】 総務部総務課まで 詳細は本学ホームページをご覧ください。  
<https://www.hokusho-u.ac.jp/>

## ふるさと納税による本学支援

江別市ではふるさと納税を活用した高等学校・大学支援を導入しており、応援先として本学を指定し寄付を行うことができます。納めていただいた寄付金額から返礼品の経費と江別市の事務経費を差し引いた金額（寄付金額の3割程度）が、本学へ教育環境の充実のための補助金として交付されます。

なお、江別市にお住まいの方は、返礼品を受け取ることはできませんのでご了承ください。詳細は江別市企画政策部企画課サイトをご覧ください。

【江別市企画政策部企画課サイト】  
<https://www.city.ebetsu.hokkaido.jp/soshiki/kikaku/105841.html>

御礼申し上げます

多くの皆様からご支援を賜りました。また、江別市ふるさと納税においてもご寄付をいただきました。厚く御礼申し上げます。

## 年間行事予定 2024年4月～2025年3月

- 4月 入学式
- 5月 オープンキャンパス
- 6月 オープンキャンパス
- 7月 オープンキャンパス
- 8月 編入学試験(第1期)／オープンキャンパス
- 9月 創立記念日／前学期学位記授与式／大学祭／保護者懇談会／オープンキャンパス
- 10月 創設60周年記念ホームカミングディ 2020年度卒業式
- 10月 大学院入学試験(第1期)
- 11月 学校推薦型選抜・特別選抜試験
- 編入学試験(第2期)
- 12月 オープンキャンパス
- 1月 大学入学共通テスト
- 2月 一般選抜(A日程)／編入学試験(第3期)
- 大学院入学試験(第2期)／大学見学会
- 3月 学位記授与式／一般選抜(B日程)
- 編入学試験(第4期)／オープンキャンパス

## 今年もたくさんの「せんせい」が生まれます!

令和6(2024)年度採用の公立学校教員採用候補者選考検査において、本学から138名(現役104名、既卒34名)が第2次検査に合格し、教員登録されました。過去7年間では受検者全体の合格率を本学の合格者が常に上回っており、特に令和5年度と令和6年度は全体平均を30%以上も上回る結果となっています。

本学では教職センターと各学科の連携によって、対策講座などを早期から計画的に実施し、目標実現を支援しています。これによって、令和6年度は現役合格者数が過去最多となりました。また、北海道や札幌市のほか、道外の模擬試験対策も

充実させたこと、学生が受検を希望する自治体に合わせて個別対応を行ったことなどによって、道外の合格者が13名と大幅に増加しました。今後も教職員一丸となって学生により添い、地域で活躍できる教員養成に邁進してまいります。

合格おめでとうございます!

令和6年度  
教員採用候補者選考検査  
登録者数 **138名**

令和5年11月10日現在